

中国の王さんが福祉施設を研修

中国・西安市から王歆歆さんが福祉施設の視察に来結。約1カ月にわたって介護老人保健施設「すばる」を中心に、視察を行い、30日に帰国します。

王さんは、西安外国語大学で日本語を専攻。西安市新世紀境外就業培訓センターで日本語教師や通訳などとして働いていました。今回、同センターで100床の入所老人ホームを建築中で、王さんは、この老人ホームで介護員を指導する仕事をするとともに、将来的には日本で外国の介護員を受け入れる制度がスタートした際には、日本へ派遣する実習生の受け入れ準備も担当する予定です。

「中国では1人子政策で、少子高齢化が進んでいます。特に、1人子の子供を亡くした『失独者(親)』の精神的なケアが大きな問題になっています」と話す王さん。日本での視察を通し「仕事に心から打ちこむプロフェッショナルを育てたい。もしチャンスがあれば、中国の職員を日本に行かせ、すばるで研修させたい」と話していました。

平成27年10月28日

